



国際・情報

INTERNATIONAL & INFORMATION

新潟国際情報大学広報 第18号

〒950-2292 新潟市みずき野3丁目1番1号 tel 025-239-3111 fax 025-239-3690 E-mail somu@nuis.ac.jp URL http://www.nuis.ac.jp



しなやかな力を培って、
大きく踏み出す
新しい未来への一歩。

平成15年3月20日(木)午後1時より、新潟市民芸術文化会館において平成14年度卒業式が、晴れやかに、厳かに執り行われました。情報文化学科一〇九名、情報システム学科二六五名の計二七四名が、この春、本学から社会へと巣立ちます。

式典には父兄も多数列席。学位記授与では卒業生全員の氏名が呼び上げられ、各学科総代が学位記を受け取りました。武藤学長の祝辞、学生表彰と続き、最後に情報システム学科の佐藤良秋さんが卒業生代表として答辞を述べました。

午後6時からはホテル新潟で学生主催の卒業記念パーティーが開かれ、希望に満ちた新たな門出をにぎやかに祝いました。

学長告辞



新潟国際情報大学長
武藤 輝一

新潟国際情報大学、情報文化学部、情報文化学科、情報システム学科の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

本日、多数のご来賓並びにご父兄にもご臨席頂き、第6回新潟国際情報大学卒業式を挙げてまいりました。卒業生の皆さんはもとより、本学にとりましても喜ばしい限りであります。この日を迎えられる卒業生の皆さんに、またご父兄の皆様に新潟国際情報大学の役員、教職員を代表して、心からお祝い申し上げます。また、本日ご出席のご父兄の皆様には、晴れの卒業式で、ご子弟を目の前にされ、お喜びはいかばかりかと、推察申し上げます。

この度の本学の卒業生は、情報文化学科〇九名、情報システム学科六五名、合わせて一七四名であります。このように澁刺と希望に溢れ、前途有為の皆さんを送り出すことが出来ますのは、新潟国際情報大学にとりましても大きな誇りであり、喜びであります。

皆さんが本学に入學されてから満四年の月日が経ちました。早いものです。

“歳月人を待たず”という実感でありましょう。学生生活の毎日は悔いのない有意義のものでしたでしょうか。皆さん、それぞれに沢山の思い出があり、この思い出は巡り来り、懐かしさは尽きぬ事でしょう。これからの新しい道に、一抹の不安があるかもしれませんが、皆さんは若いのです。逞しき意志、燃ゆる情熱、怯懦を却ける勇猛心、を十分に發揮して、強固な信念の下で、皆さん自身の道を作り上げて下さい。

本学は間もなく開學十周年を迎えることとなります。本学は大学設置基準の大綱化という新しい波の中で生まれ、近くまた、教育基本法の改革の波

を受けることになるかと思いますが、情報化、国際化時代を担う人材の育成、という大学創設の目的には変わりなく進んでまいりました。卒業生の皆さんが、卒業して本場に良かったと思ひ、誇りに思う事が出来る大学であるべく、教職員の皆さんも在学生の諸君も努力を続けます。幸い、新しい市街地キャンパス内には同窓会の部屋も作られます。卒業生の皆さんには、これからの貴重な経験を通して、本学並びに後輩諸君のため、大いにご助言頂きたいと存じております。

今や期待の二十一世紀に入つて数年、いろいろと二十一世紀に相応しい「哲学」や「想い」があります。二十一世紀は「知識と教育の時代」と言われています。大学での教育や学習は、それぞれの生涯を通しての中心となる教育、学習ですが、一つの過程でもあります。皆さんご存知の情報技術は勿論のこと、生物細胞技術、超微細技術、あるいはそれら相互に関連するものなど、世間の多くの変化は急速であります。社会に出てからも、皆さんが大学で会得した「習慣的能力」と呼ばれる知識や技能にも、常々、改善や新鮮化を図らないと、時代に取り残された人間となつてしまします。ユネスコで初めて生涯教育、生涯学習の言葉が用いられた一九六六年、ユネスコのシンポジウムで、英国の医師ピカリンク卿は、代表的な生涯教育、学習として、医師の卒業後の認定医制度を挙げました。類似のこととは現在、沢山の分野に見られますが、継続教育、再教育、リフレッシュ教育の総てを含めて生涯教育と呼ばれています。生涯教育、学習の中で最も大切なことは、第二に生涯継続して行つこと、第二に自発的に行つこと、この二つであります。生涯学習は大学の講義や一般の講演会だけでなく、マスメディアを利用する事も出来ます。皆さんの平素の心掛けによつて、これらの組織社会、知識社会の中で、人生を明るく充実したものとして下さい。

国内の経済不況、失業率の増大、多くの企業でのリストラなどにより、日本国民は自信喪失したかに見え、漂流する日本人、などと呼ぶ外国人もあります。組織と組織、人と人との間の信頼感が薄くなり、また確固とした信念なしに無責任に付和雷同することも、信頼の喪失につながります。組織社会の中で、あるいは他人の信頼を得て活躍するために、公共的思考を持ちつつ、説明責任をカウంటビリティーのある言動をすることが必須であります。自らの人生を悔いなきものとするためにも、責任感を堅持するよう心掛けることを期待しております。

この冬は昨年の長期予報に反し、寒い冬となり

ました。本学の校庭の櫻が咲く頃には、皆さんは、もう社会人として希望に溢れ、元気に活躍している事でしょう。蘇軾の「別歳」の中に、人行くも、なお復すべし、歳月なんぞ追うべけんや、とあります。皆さん、これからの人生の二三日を大切に、かつ有意義に過ごされる事を希望しますと共に、ご卒業を心からお祝いし、前途に幸多かれと祈り、皆さんを送る言葉と致します。

平成十五年三月二〇日

新潟国際情報大学長 武藤輝一

理事長祝辞



学校法人 新潟平成学院 理事長
小澤 辰男

本日、卒業される一七四名の皆さんに、心からおめでとつを申し上げます。

第六回、平成十四年度卒業式を挙げるにあたり新潟国際情報大学の運営にあたる理事会を代表して心からお祝いを申し上げます。併せて、ご列席いただきましたご父母の皆さま、ご指導にあられた教職員の皆さん本学におめでとつでございます。お慶び申し上げます。

皆さんは平成十年四月入學し、本日卒業の日を迎えました。この四年間、優秀で個性豊かな教授陣と恵まれた教育環境の中で多くのことを学ばれたと思います。中国、アメリカ、韓国、ロシアそしてカナダに派遣している海外留学も含め、それぞれがこれからの人生に役立つ数多くの新しい出会いを経験し、友人、知人の輪も広がったはずで、在学中に学び、培った力を実社会で存分に発揮し、それが自らの選んだ道、あるいは自らに課した目標達成に向け邁進されるよう心願しています。

いま皆さんが新しく船出する日本社会は極めて

て厳しい状況にあると言つていいでしょう。バブル経済崩壊後の出口の見えない不況は大手企業の倒産、リストラ、失業の増大による雇用不安を引き起こし、これと連動するように犯罪も悪質化してきています。国際的にはイラク、北朝鮮をめぐっての一触即発の緊張が続く、世界の中で日本の対応が問われています。告辞の中で武藤学長も指摘されているように、いま日本社会全体が自信を失っているのと同じに見えます。明治維新、昭和二十年の敗戦に次いで大きな変革の時とも言われています。時代の変革を担うのは若い諸君等の世代です。失敗を恐れぬ若さ、未来を創造するまぶしいばかりのエネルギー、皆さんにはこの「若さ」という何物にも変えられない財産があります。

中国に「去る日の多くを苦しまず、只、求めよ失う日の少ないこと」ということわざがあります。後悔する日を少なくするよう日々努力し、充実した日を送れるよう頑張りなさいという意味であります。

皆さんが実社会でそれぞれの信念に基づいて力強く生き抜き、充実した人生を歩かれるよう期待いたします。

本学は平成六年開學いたしました。多くの方々にご支援をいただいたの功で、英語の習得に加え、ロシア、中国、韓国など対岸諸国の言葉や文化を学べる大学、理系文系の枠を外し「コンピュータネットワーク」の進展に合わせた新しい情報活用法を学べる大学、環日本海の時代に、地域として積極的に取り組んできている新潟から、時代が求める「国際化に生き、情報化を活かす」若い人材を育てよう。新潟国際情報大学設立に向けての思いはこつしたものであります。

大学をとりまく大変厳しい環境の中で、本学は、今年開學十年の節目の年でもあります。情報センター棟増築に加え、六月には旧新潟中央銀行跡地に市街地キャンパスが開校いたします。市街地での立地の特性を活かした教育研究の展開や国際交流など、本学の新たな歴史を刻んで参ります。市街地キャンパスには同窓会の部屋が設けられ、卒業生が集えるスペースを用意いたします。また起業にチャレンジする若者が共同で研究できる場になつて欲しいとも願っております。本日卒業される皆さんにも大いに活用頂きたいと思ひます。

新たな門出にあたり、改めて、心からのお祝いと、さらなる活躍を祈念し、ご挨拶といたします。

平成十五年三月二〇日

学校法人 新潟平成学院 理事長 小澤辰男

来賓祝辞



新潟ゼロックス 株式会社
取締役社長
塚本 亮

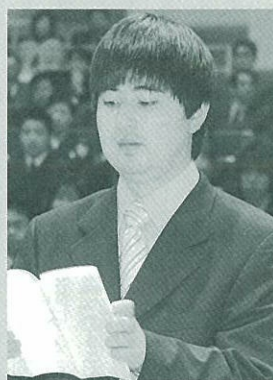
本日でたくさん卒業の日を迎えられました卒業生の皆様、そして皆様を支えてこられたご家族の方、教職員の先生方に心からお慶びを申し上げます。本日は誠にありがとうございます。

新潟ゼロックスは、現在、情報通信産業の一員としてお客様の情報ネットワークの創造・活用のお役に立てるよう、日夜活動しています。そのような仕事柄から、貴校の第一期から卒業生の方が、弊社に毎年入社し活躍をしています。今年も2名の方が入社しますが、本日、無事に名前を呼ばれましたので、ホッとしております。

過去に入社した卒業生のみなさんの印象は、豊富なITリテラシーはもちろんお持ちですし、社会人として重要な素直さと明るい人柄に私は好感を持っています。これは貴校の校風から出てきているものだと感じています。

素直さと明るさというのはたいへん重要なことで、私の大切にしていることでもあります。人生の成功の要因は四つあると言われています。健康・能力・人柄・運。割合は、健康が4割、能力・人柄・運が各2割。能力だけでは、成功する確率は2割でしかありません。これからは能力が必要ですが、重要なのは、まず健康。健康第一で、人柄・人間性を高め、そして運を呼び寄せることが大切だと思っています。その運は、素直で明るく感謝の心のあるところに寄ってくると言われています。大きな可能性を持った皆様が、ますます健康で、素晴らしい人と出会い、そして運に巡りあい、輝かしい人生を歩まれることを祈念いたしまして、お祝いの言葉に代えさせていただきます。

卒業生答辞



情報文化学科 情報システム学科
佐藤 良秋

本日は、私たち卒業生のために、このような盛大な卒業式を挙げていただき、誠に有り難うございました。心よりお礼申し上げます。

期待と不安を抱きながら迎えた入学式がまだつい昨日のようにも思われますが、月日が経つのは早いもので、それから四年過ぎ、本日、私を含め二十七名が卒業することとなりました。

振り返りますと、この四年間に大学の環境は大きく変化しました。海外研修が正式に授業の中に組み込まれ、より身近に、またより深く国際文化を勉強することができるようになりました。

初めは少なかつたWindowsマシンも多く導入され、またとても遅かつたインターネットへの接続も高速になりました。これからも情報センターの拡張や、市内中心部の新しいキャンパスの開校も予定されており、まさに国際情報の名に相応しい環境が整いつつあります。

このような環境の中で私たちはさまざまなことを学ぶことができました。これは授業で習うことばかりではありません。

私は、四年間、勉強とは別に、インターネットを用いて遠隔地に住む人と共同で大きなコンピュータ作品や、音楽作品を作ることができました。このお陰で自分の作品を多くの人に見てもらえました。また、その過程で、日本語がなされていなかったのに、便利なのにも関わらず国内ではほとんど普及していないDirectMusicという技術を見つけ、この研究を行うことができたのです。

また、ネットワークを通してコミュニケーションをするときのマナーも身につけることができました。

皆様様々な体験をして、学ぶことができたと思われまふ。

しかし、その反面、私はこの四年間の大学生活の中に直接触れあう機会がとても少なかつたような感じがします。

情報化社会の発展は、便利になる反面、人と触れ合う機会が減り、他人と悲しみを共有することがない味気ない生活に陥る危険もはらんでいます。益々発展する情報化社会の中で情報技術の成果を享受しつつ、どのように人間らしい生活をしていくかを考え続けていくことが、今後の私達に課せられた課題であると思います。

これから私達は、それぞれ自分の決めた道を歩んでいくことになります。私達のほとんどは今日で学生生活が終わりとなりますが、これから数多くのことを体験して学ぶことなると思います。もちろん、その過程で大きな問題に直面することもあると思われます。このようなことがあっても、そのような場合でも、新潟国際情報大学で学んだことを糧として挫折することなく頑張っていきたいと思っています。

最後に、今日まで私達を親切に支えてくださった、諸先生方、事務局のみなさん、そして家族・友人に心より感謝いたします。

今後の新潟国際情報大学の更なる発展を期待して私の答辞とさせていただきます。

平成十五年三月二〇日

新潟国際情報大学 第八回 卒業生代表

情報文化学科 情報システム学科

佐藤良秋



祝電

- ◆新潟県知事 平山征夫 様
 - ◆新潟市長 篠田昭 様
 - ◆日本私立大学協会 会長 大沼淳 様
 - ◆長岡技術科学大学 学長 服部賢 様
 - ◆上越教育大学 学長 大澤健郎 様
 - ◆日本歯科大学 新潟歯学部 部長 東理十三雄 様
 - ◆新潟産業大学 学長 内田安三 様
 - ◆新潟造形大学 学長 豊口協 様
 - ◆新潟工科大学 学長 丹野雅元 様
 - ◆新潟青陵大学 学長 木下安子 様
 - ◆長岡大学 学長 中西貞夫 様
 - ◆(例)フォーラムエンジニアリング様
 - ◆(例)リクルート様
 - ◆(例)オンラインコピーレーション様
- 以上、祝電をいただき、誠にありがとうございました。

平成十四年度卒業表彰

●学長賞(総代)

情報文化学科

梅沢亜矢子

情報システム学科

佐藤良秋

(学業成績優秀)

●学術賞

情報システム学科

大澤麻梨子

情報システム学科

玉木文子

(新潟市産業活性化学生会議第4回学生提言発表会において、第2位相当の「優秀賞」を受賞)

情報文化学科

宮腰哲

情報システム学科

長谷川圭介

(ソフトウェア開発技術者試験合格(旧一種相当))

卒業生のことば

* 情報文化学科

加藤 玲子

卒業するに際し、「アレが良かった〜」という思いが「一番強い」です。4年間を通して学んだことは多く、良い友人や先生に出会えて、とても自分は幸運だと痛感しています。けれども、あまりにも4年間であつという間に過ぎてしまったせいででしょうか。社会に出る一歩手前の今の時期になって、卒業や就職活動を通して自分の未熟さを感じ、人間性や知識など、様々な面で自分は勉強が必要なんだと知りました。「それに気付くための大学生生活」だったのかもしれない。こうした気持ちをバネに、無理難題にも食い下がって頑張れるような強い心を身に付けていければと思います。

* 情報文化学科

斎藤 浩章

卒業するにあたって、今日の私があるのは、先生方をはじめ事務の職員の方の御指導と御協力を頂いたからだと思います。また、友達や部活の先輩や後輩にも恵まれ、楽しい有意義な学生生活を送ることができたことに感謝しています。そして、4年間いろいろな面で支えてきてくれた両親にありがとうという気持ちでいっぱいです。

* 情報文化学科

三木田 薫

大学生活を思い返すと、私はこの大学で様々な思い出を持つことができました。それら全てが貴重な経験で、私の学生生活はとても楽しく価値あるものとなりました。

一番感動的な思い出はアメリカへの留学です。5週間というわずかな時間の中においても得たものは大きく、日米の違い、さらに普段気付くことのなかった日本の文化についても知ることができました。またパスポートを持ったことで世界の国々が身近に感じられ、地球上には様々な国が存在するのだと改めて実感しました。国際社

会である今大学で学んだ知識を生かし、意味のある人生を歩もうと思っています。

最後に、4年間お世話になりました先生方、楽しくバワフルな授業をありがとうございました。国生であったことを誇りに、社会人としての第一歩を踏み出そうと思っています。

* 情報システム学科

伊藤 正博

4年間の大学生活を振り返ると、大学生活というのには「自由」であった。講義を自由に選択でき、将来のために努力する時間もあつた。

「自由」というとマイペースに生活でき、どこか楽なイメージがあるが決してそうではなかった。4年という時の中で、時に自分自身に甘えてしまい気付くこと多くの時間を無駄に使っていた。そんな自分に反省し、その中で「自由」の中で生活していくには目標をしっかりと見据え、決して自分に妥協することのない強い心が必要であると実感した。

結果的に目標を十分には達成する事は出来なかった。しかし、そこから学んできた事は自分にとって大きな経験になった。その経験を生かし次の目標に向けて突き進んでいきたい。

* 情報システム学科

刈屋 浩美

大学生活を振り返るとあつという間の4年間でした。最も印象に残る思い出は、4年の夏に行つたゼミ合宿です。秋田、青森への2泊3日の合宿と、北海道への計4泊5日の旅はとも思ひ出深いものになりました。秋田、青森では、他のゼミ生との合同合宿で皆と協力し合い、夕飯を作ったり、花火をしたりと大いに盛り上がり、いろんな人と触れ合うことができた。その後は私たちのゼミ生のみで、北海道への旅を計画し、青森からフェリーに乗り、函館を観光しました。函館の夜景はとても綺麗で、ゼミの皆で楽しい時間を過ごすことができました。今回の旅行に

よつて、ゼミ内の親ばくがより深まり、充実した大学生活を送ることができたと思います。

* 情報システム学科

高橋里彩子

私にとって最後の学生生活であった大学の4年間は、今思つとあつという間に過ぎていきました。その中で得たものは友達という存在の大きさです。授業は高校までとは違い、履修して講義を受けましたが、自分で理解できなかった部分を友達に教えてもらったおかげで無事乗り越えられたと思います。また、生活面においても大学に入ってから自分の時間が多くなったため、友達と話をする機会も増えました。辛いことや楽しいことをお互いに聞き合つことで、私にとっての大きな心の支えになっていました。

社会人になると生活が変わり、大変なこともたくさんあると思いますが、1人ではないことを心に置き、人間的にも大きくなつていきたいと思っています。

* 情報システム学科

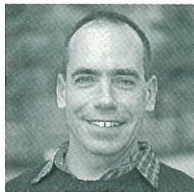
横山 慎平

「4年間」かあ：短かった。総日数365日×4年11日11461日は数字で表すと多いけれど、4年前の入学式がつい最近だったような気がする。おそらく答えは、大学生活が楽しかったからではないだろうか。課題提出、国家試験、英語スピーチコンテストなど、大変だったことを挙げればきりがながないが、それ以上に楽しかったことのほうが多かった。黒字を目指してやった学園祭の模擬店準備、他大学の学生との交流会、そして部屋に泊まりこんで練習したドラマコンテストは大変だったにもかかわらず、楽しい思い出になっている。

またここで出会えた多くの仲間や色々なことを教えてくれた先生は特にこの4年間で切っても切り離せない存在だ。今度は、社会人1年生であるが、大学のことを思い出すと在学生在が羨ましく思える。

退職教員

本年度をもって情報システム学科 正田達夫教授、安達巧助教授、CEPインストラクター David Jeffrey先生が退職されます。



David Jeffrey

(Communicative English Program・CEP Instructor)

《在職期間》

2000年4月～

2003年3月

"To all the staff and students of NUIS, I wish you all the very best of everything for the future. Thank you for a very enjoyable experience in CEP."

I hope the students will continue to use the English they learned in CEP, and that it will contribute to the success of their future international careers in the global village that the world has now become. This is not good-bye, just so long. See you again some time. Take care, and if you come to Tokyo please visit us, it will be great to see you all again"



正田 達夫

(情報システム学科教授)

《在職期間》

1994年4月～

2003年3月〈定年〉

●今後の予定

約40年間のビジネスマンとしての経験を生かして、この大学で9年間マーケティングを伝えて来ました。また、その間に広告管理とインターネット広告について研究を続けました。これからも、これらの研究は続けたいと思いますし、ライフワークのチーズ・マーケティングも将来はまとめたたいと願っています。

シニアの方へインターネットを教えようかとも思っています。また、趣味の美術館めぐりができればと夢を描いています。

●NUISに勤めて嬉しかったこと

学生の卒業研究を通して、多くのことを学ぶことができたこと。さらに嬉しいことは卒業生が仕事のなかでマーケティングを活用して活躍していることです。また、ゼミやESSの卒業生など多くの友人を創ることが出来たことです。

●学生へ向けてひとこと

人生を楽しむのは、「ビジョンと目標」です。皆さんも仕事や趣味の分野ごとに、ビジョンを持ち、また年間・月次の目標を立てて前進することをお勧めします。

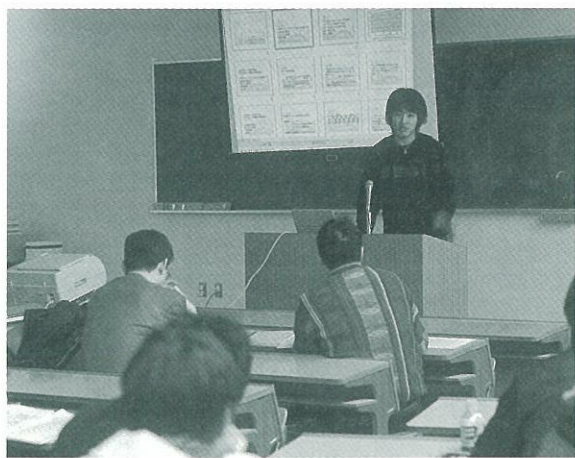
二〇〇二年度情報システム学科 卒業論文発表会報告

情報システム学科専任講師 小宮山智志

去る二月七日(金)・八日(土)の二日間、二〇〇二年度情報システム学科卒業論文発表会が開催されました。

現代は今まで以上に「問題を発見し、改善提案を示し、現代よりも改善提案の方が望ましい」ことを実証論証する」という情報創造・研究能力が求められる時代となりました。昨今卒業論文を選択科目にしている大学も少なくありませんが、本学はこの能力の育成を重視し、卒業論文を必修科目としております。

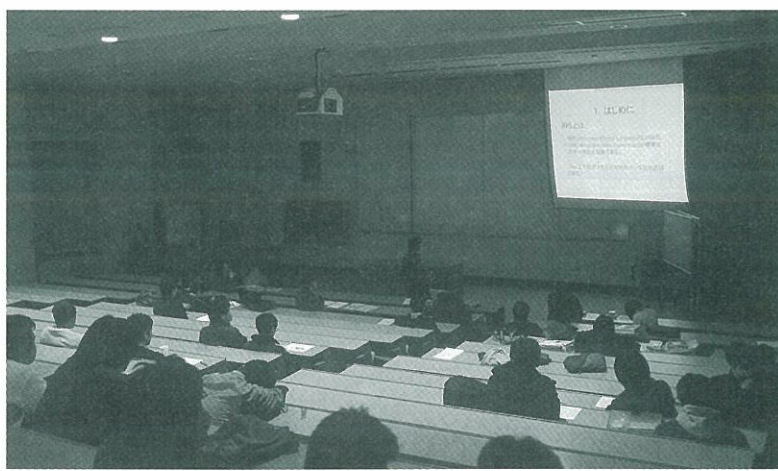
また同時に、自分の成果を適切にプレゼンテーションすることもますます求められるようになりました。本学は二次よりプレゼンテーションを重視した教育プログラムを実施しております。情報システム学科では各自が、講義・演習等で培った情報創造能力・プレゼンテーション能力の集大成として、全員が研究発表を行います。本学科は研究分野が多岐にわたっていることから、分野が隣接する二研究室ごとで、発表会を開催しております。本年度は三日間で十会場、ほぼ二十名ずつに分かれ発表会を行いました。



一人の発表時間は十二分でした。この短い時間内に適切に各自の研究を伝えるために、学生は何度も練習を行ない、またプレゼンテーション用のソフトウェアを活用していました。

また発表の後に、質疑応答が三分間あり、質問者・回答者、いずれも臨機応変な対応能力・理解力が試されます。司会進行も学生同士交代で行われました。

すべての発表会に参加することはできないのですが、私が参加した会場では、熱い議論が六時間にわたって交わされました。緊張したためか、実力を発揮しきれない場面もわずかにございましたが、大学生として充分な能力を身につけたことが見て取れました。「もう私の出る幕はない。皆さん立派に一人立ちした」と実感できたすばらしい発表会であったことをここに報告申し上げます。



講義紹介

「地域研究特論A」(情報文化学科三年専門科目)

情報文化学科専任講師 安藤 潤

二〇〇一年度後期・火曜5限に情報文化学科専門科目として三年次生を対象に「地域研究特論A」が、多くの関係者の方々のご理解・協力をいただき、初めて開講されるに至りました。同科目は文化学科専任教員一名が「コーディネーター」となり、基本的には登録した学生が主体となつて全体及びグループ別テーマを決め、担当の講師を学内・学外から選び、学生が自分たちの手で作り上げるという形式をとっていることが最大の特徴です。

二〇〇二年度は「一分断を超えて」を全体テーマとし、それを4グループに分け、本学情報文化学科専任教員18名のうち10名とインストラクター1名が講師あるいはパネリストとして参加しました。また、学外からもお忙しい中、2名の方にも講師を務めていただくなど協力いただきました。

担当グループの学生は相当な時間を割いてアンケートや調査、資料作成といった準備を行い、学外講師招聘に当たっては学生自らが交渉してそれを実現しました。それだけに学生も「やらされるのではなく、やりたいからやっているのだ」という気持ちで大事」ということを再認識したようです。実際、私もパネリストとして参加しましたが、受講していた学生の知的好奇心に満ちた真剣な眼差しが非常に印象的でした。「グループ内で手分けして、時間がたつのも忘れ夜中まで勉強し、友達と納得いくまで幾度も議論し合い、時間はかかっても疑問をつつ消化していくことがこんなに面白いことなのだ」と、主体となつて学ぶことの楽しさを久しぶりに思いださせてくれた「一セミ以外のテーマを自分から取り組むことは貴重かつ楽しかった」という学生の感想からも充実感が感じられると思います。

また改善の余地が残されているとは思いますが、二〇〇三年度以降も情報文化学科としてできる限りの協力を惜みず、この講義をより一層発展させていきたいと考えております。

「生産情報システム」(情報システム学科二年専門科目)

情報システム学科専任講師 佐々木 桐子

「生産の領域(生産の場)」は、言葉だけでは非常に伝えにくく、また大変伝わりにくいものです。実際の現場に足を運び、現場を見て、携わる人の声に耳を傾けるのが一番の勉強になります。残念ながら講義の中ではすべての履修生(毎年約200名)にこのような機会を平等に与えることは非常に困難です。

そこで、「生産情報システム」の講義では、このような「生産の領域(生産の場)」に対し、興味や問題意識を抱く動機付けとなるよう、次のような授業作りをしています。

前半は、身近な例や問題をとりあげながら、生産情報の処理プロセスを理解し、生産の運用に関わる諸手法を習得していきます。限られた講義時間(1時間30分間)を、「書き出す時間」として消化してしまつてはななく、問題を与え、それを「考える時間」、「自ら解く時間」として費やす授業構成をしています。

後半は、生産の運用をより現実的に再現することを目的として、シミュレーション手法を活用します。履修生自ら、コンピュータ上に仮想(もしくは既存)の生産システムモデルを構築し、円滑な生産に向けたさまざまな提案を行います。本授業で使用するシミュレーションソフトはそれほど高度なプログラミング技術を必要としません。そのため、1回の講義の中で使い方を説明すると、自ら小規模な生産システムを構築できるようになります。仮想的な空間かつ小規模ではありますが、自ら生産システムを構築できること、その構築された生産システムが実際に動き出す(アニメーションとして実際に動きを確認することができます)ことへの感動と喜びを味わう事ができます。

このように、伝えにくい「生産の領域(生産の場)」を、ITを活用しより伝わりやすくすることで、「生産の領域(生産の場)」への興味や問題意識を抱く動機付け 教育を実現することが、この授業の特色といえるのかもしれません。

二〇〇二年度留学帰国報告会

本学は平成12年度から派遣留学・海外夏期セミナーの実施を始め、13年度まで計一四名の学生を海外に派遣し、良好な教育効果を得た。14年度も引き続きこの制度を実施した。情報システム学科の海外夏期セミナーでは、カナダ・アルバータ大学に約5週間16人を派遣し、情報文化学科の派遣留学制度ではアメリカ・ノースウェスト・ミズーリ州立大学に約5週間13人を、また韓国・慶熙大学に10人、中国・北京師範大学に17人、ロシア・極東国立総合大学に3人を、それぞれ約4ヶ月派遣し、計59名の学生を送り出した。全コースの参加学生とも、留学先の国々で毎日新しい発見をし、語学や知識の習得・異文化体験、国際交流などの面において多くの成果を収めた。

海外での勉強を終え太学に戻ってきた学生諸君を迎え激励するために、平成15年1月15日に留学帰国報告会を開催した。そこで、カナダ・コースの代表は英会話ばかりでなく、ホームステイによる身近な国際交流や、情報学関連の勉強と企業訪問による北米社会への理解などの成果を語った。アメリカ・コースの代表は、日本人以外の外国留学生と一緒に勉強し、様々な地域特色を美感じ、諸国の人々と英語

国際交流委員長
情報文化学科教授

区 建英

で交流できたことを述べた。韓国・コースの代表は韓国の生活環境の中で語学力がとて早く上達し、韓国語を共通語として中国人やロシア人とも交流し、諸国の文化や価値観を学ぶことができたこと述べた。中国・コースの代表は、歴史認識の壁を乗り越えて友好的に日本人と交流する中国人の姿、学習と生活上熱心に指導してくれる中国人教師の姿、町での様々な異文化体験を語った。ロシア・コースの代表は、現地で見えた日本語スピーチコンテストについて、日本語・日本文化に関するロシア人の教養の深さに圧倒された感想を述べた。

各コース代表の内容豊かな報告から分かるように、学生諸君は海外体験を通じて、語学の上達はもちろん、国際感覚が養われ、見識が増え、人格形成の面でも大きく成長した。これらの留学成果は今後学生諸君の勉強や活躍に大いに役立つであろう。



竹並ゼミ、産業活性化会議 優秀賞受賞

新潟市産業活性化学生会議が、学生に新潟の産業に興味を持ってもらうことを目的として開催されました。会議の中心は学生による提言発表で、1月16日に「地域のニーズをビジネスに！」という題目で学生らしい独創的な提言が七件発表されました。

私達は近年、学生が地元地域との関わり合いが「薄い」という問題に着目し、インターネットを利用して地域や企業に対して貢献できる学生パワーを紹介するマッチングビジネス（出会い系サイト）を通して、学生が地域と共存していくという事を目的とした「双方向で地域と学生を結びU（University）to C（Community）Web」を提案しました。提言に説得力をもたせる為に、学生アンケートや地元地域の方にヒヤリング調査をし、市場性（ニーズ）、市場から求められるビジネスモデル、採算性、ホームページサンプル、地域経済への波及効果を苦心して考えました。その結果、現実的に即した提言が評価され優秀賞を頂く事が出来ました。

資格取得奨励金授与式

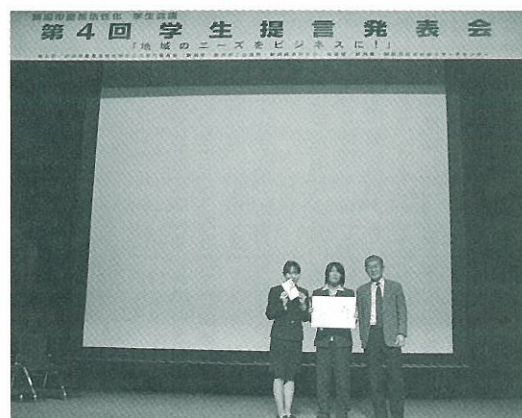
在学中にさまざまな資格試験に挑戦しようという学生たちを、NU-Sでは積極的にバックアップしています。資格取得や認定試験などの情報提供はもちろん、資格取得者への奨励金も出しています。その奨励金の授与式が、平成15年1月15日に行われました。緊張している人もいれば、お金をもらってうれしそうな人もいて、反応はそれぞれ。

資格を取得できた皆さん、おめでとうございました！



下の表は今回表彰された資格とその取得者数です。

種別	取得した資格	人数
I 型	中国語検定2級	1名
I 型	ソフトウェア開発技術者試験	2名
II 型	日商簿記検定	7名
II 型	中国語検定3級	10名
II 型	ロシア語能力検定試験3級	1名
II 型	TOEIC(IP)	1名
II 型	初級システムアドミニストレータ	14名
II 型	基本情報技術者試験	6名



▲竹並先生とともに

情報システム学科4年 玉木 文子（文責）
情報システム学科4年 大澤 麻梨子

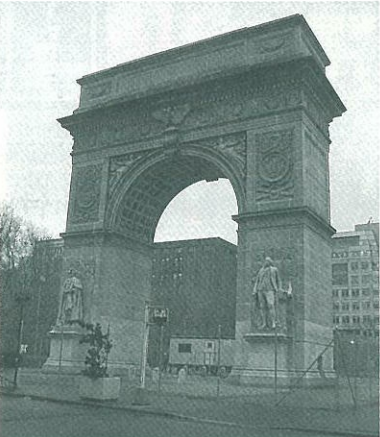
平成14年度公認団体の主な活動成績

日付	団体名	大会名	開催場所	大会結果
4月12日	バドミントン	第46回北信越大学バドミントン選手権大会	石川	男子3部リーグ1位、女子1部リーグ3位(2部3部入れ替え戦にて2部昇格)
6月1日	陸上競技	第76回北信越学生陸上競技対抗選手権大会	福井	女子砲丸投げ3位 女子やり投げ優勝 幾野貴子
8月7日	バドミントン	第47回北信越学生バドミントン選手権大会	福井	女子ダブルス準優勝 岡／西須0(7-15 9-15)2安念／長澤(富大)
8月10日	陸上競技	第24回北日本学生陸上競技対校選手権大会	新潟市	男子4×400mR3位 (梅津弘明、武田善雄、小林利也、山之内浩)
8月31日	陸上競技	第46回北陸地域陸上競技選手権	石川	男子4×400mR3位 (山之内浩、小林利也、武田善雄、梅津弘明)
9月28日	バレーボール	第18回信越大学バレーボール大会	長野	予選リーグ出場
10月5日	陸上競技	第33回北信越学生陸上競技選手権大会	新潟市	男子400m3位 武田善雄 男子4×400mR3位 (梅津弘明、武田善雄、山之内浩、小林利也) 女子砲丸投げ2位 女子やり投げ2位 幾野貴子
10月18日	バスケットボール	第36回北信越学生バスケットボール選手権大会兼インカレ予選	相川町	2回戦敗退
10月24日	バレーボール	第50回秋季北信越大学バレーボール選手権大会	富山	――
10月26日	陸上競技	第86回日本陸上競技選手権リレー大会	神奈川	男子4×400mR予選出場
11月7日	バドミントン	第47回北信越大学バドミントン選手権大会	富山	男子2部リーグ2位、女子1部リーグ2位
11月10日	フィットネス研究会	第27回北信越パワーリフティング選手権大会	福井	90kg級 第3位 曾原啓太
11月17日	茶道	第40回学生茶会	新潟市	――
11月29日	ESS	HASSA Drama contest	新潟市	――
12月15日	フィットネス研究会	第20回全日本アームレスリング選手権大会	東京	男子ライトハンド 55kg級 上村一夫、90kg級 佐藤 司 出場

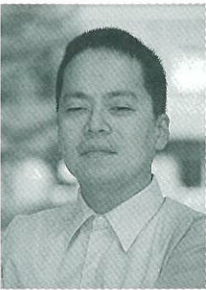
昨年の八月から二年間の予定で「ニューヨーク大学国際高等学術研究所（ICASS）」の共同研究に参加している。「グローバルな紛争としての冷戦」という三年計画の研究である。私が参加しているのはその二年目で、個人的な研究テーマは「冷戦期における政治理論の文化的特質」である。今回の研究は新潟国際情報大学の在外研究制度とICASSの研究員招聘プログラムによって可能になった。住まいはニューヨーク大学所有のアパートである。古いが研究室からブロックしか離れてないのはありがたい。ここに住み始めて驚いたのはマンハッタンの治安の良さである。以前一年間住んだシカゴとまったく異なる。同じアメリカの大都市にもかかわらずこうした違いが生じた経緯自体が都市社会学のテーマになっているはずだ。

この治安向上の原因には諸説ある。パティなどこれまで何回か議論になった。面白いのはその理由を説明するときにも各人の政治性がすぐに表れることだ。日本のメディアでさかんに言われていたジュリアー前市長のおかげだというのが共和支持者の意見でしかない。民主党支持者はまた別の原因を指摘する。つまり場合でも適宜に相手に話を合わせることはない、本心にさまざまな意見が出てくる。「治安が良いのはNY市民にとって本心に良いことか」という根源的な意見まで出てくる。

それらの意見はどれも説得力があつて面白い。しかし面白がついているわけでもないのは「お前はどいつのか」とすぐに聞かれるからだ。ここでは「一般的」で「中立的」な意見はない。自分の意見にそういう形容詞をつけることは、自分が何も考えてないことを表明するのと同じである。将来アメリカへの留学を考えている本学の学生さんたちに言っておきたい。こんな場合に「治安が良くなった原因なんてどうでもいい」とは絶対に言っちゃいけない。それこそ最悪な意見で、おそらくは猿あつかいされるだろう。ちなみに、私がどう答えたかは帰国後に質問に来ていただければお伝えしたい。



▲ニューヨーク大学のシンボルのワシントン広場の凱旋門



情報文化学科助教授・在ニューヨーク 越智 敏夫

どうしてNYは治安が良いのか
海外研究のなかばに

教員の研究活動

二〇〇二年十一月から二〇〇三年二月までの教員の研究活動で本人から提示があつたのもです。

＜出版＞

◎ 刈部恒徳特任教授

刈部恒徳 笹川寿昭 小山良二 田中芳晴「徹底解剖 欽定英訳聖書初版マタイ福音書」研究社、二〇〇二年十一月、共著。

◎ 正田達夫教授

「DAGMAR(目標による広告管理)からインタラクティブ広告まで」三恵社、二〇〇三年一月、単著。

二〇〇二年度 本学紀要出版案内

二〇〇二年三月、本学情報文化学部紀要第6号が出版されましたので、その目次をご紹介します。

◇ 人文科学編

「満州国」における水豊ダム建設

広瀬 貞三 助教授

◇ 社会科学編

日米における「T」資本の労働生産性上昇効果に関する考察
―― 1990年代後半における「T」資本の貢献 ――

安藤 潤 講師

EO環境立法の展開と共通意味世界の構成――社会構成主義の観点から――

白井 陽郎 助教授

異文化の衝突と融合 ―中国近代文化に関する敵愾の模索―

區 建英 教授

誰がテロリストを裁くのか？ ―合衆国軍事委員会と国際人権法―

熊谷 卓 講師

三条 燕市製造業者間のデジタルデバインド

小宮山 智志 講師

広告としてのウェブサイトとインタラクティブ性 企業ウェブサイトの現状と問題点

正田 達夫 教授 塚田 真二 助教授

◇ 自然科学編

短時間激運動後の回復期における高濃度酸素ガス吸入の効果
―― 血中乳酸値及び運動能力の回復から ――

藤瀬 武彦 教授ほか

◇ 情報システム編

地方私立大学における「T」利用に関する考察
―― 新潟国際情報大学における事例考察 ――

桑原 悟 助教授

二つの「交換型突然変異」の発想の必然性

樋口 光明 助教授

卒業生の便り

始まりは、大徳寺の和尚様との
出会いからです。

高梨洋平

情報文化学科 平成12年度卒

それまで畳に正座するような環境で育ったことのない私が、茶道を始めたので、異文化に接触するときのようなショックを感じていました。また、欧米文化のほうに身近く、馴染みがあると思つたほどです。そのような文化が日本には、特に京都には色濃く残っています。京都に来てからの私の体験は、外国に行ったときよりも大きな衝撃の連続でありました。自国でありながら、まさに異文化の世界でありました。

茶とは文化そのものであり、全てが美意識を高めたところで融合されたものであります。建築、書、絵画、花、料理、道具の扱いや、庭、和漢の文学、歳時記にいたる様々なものに對して、精通していなければなりません。いくら勉強してもこれで終わりということがなく、毎日多くの書物に目を通し、日々の生活に意識を高めていかなければ、積み上がり、効かない、厳しきものです。またそれだけ魅力があり、様々な視点から楽しみを見出すことができます。専門家とはまた異なる、茶人の意見を持ち高みに邁進しています。

領域の重ならない、まさにプロとしての技量が問われるのは点前の研究でありまして、現代に伝わつてきている茶の点前を師匠として伝授することにあります。そうは言うものの、茶道は点前がすべてではなく、能や生け花などと同じく、単に技のみで先述に述べたような背景にあるものや、精神性など、その者の理解や解釈により、茶に対する思いが異なりますから、いろいろな形の茶が存在します。伝統的な利休の道統を理想とするもの。風流で流儀にこだわらない茶数寄。そして学校茶道です。

現在の茶道の世界は、封建的、保守的、歪んだ稽古論、前例主義などにより、閉ざされた世界での限られた人だけのものとなっています。これを打開したいと思つたこの道に進んだのです。鍵は学校茶道にあると考えます。今までの教育の中で獲得した国際化や情報化の価値観。論理的、民主的な考え方をそれらに照らし合わせて茶道に對して感じる疑問を、大学時代の仲間も感じてくれていて、自分の求める道の形を強く意識することができました。私が感動し、一生の仕事として選んだ茶道の魅力を少しでも多くの方、特に私と同じ若い世代に伝え、外国にも目を向け、開かれた茶道へと変えていくこと。中心である京都では私のような外様の者こそ、の使命であると考え、修行を続けています。



▲表千家半床庵 宗家(左)と玄閑にて

就職活動レポート

長引く景気の低迷に、就職を取り巻く環境は決して良好とはいえません。そんな環境の中、3年次生は果敢に取り組みんでいます。就職指導委員会では、万全の体制で学生の活動を支援しています。

《学内合同企業説明会》

毎年2月に開催する「学内合同企業説明会」。今年は2月13日(木)14日(金)の2日間、わたつて本学体育館を会場に各社の企業説明や質疑応答などを行いました。学生たちは、自分の興味ある企業のコーナーに積極的に足を運び、真剣に情報収集を行いました。



今年は比較的天候にも恵まれ2日間、昨年度同数の県内外企業24社の人事担当者が出席。会場は学生の熱気に包まれていました。

《就職体験講座》

現在、3年次生の就職活動は本格的に行われています。その学生の支援の一環として、先月の2月9日(日)・10日(月)の2日間、専門家による「就職体験講座(模擬面接)」を開催いたしました。この「就職体験講座」は現在の厳しい就職採用に對して、自分自身を表現し採用試験に望むことができるようにと4年前から実施してきました。

1日目(午前)は「面接のポイント」をテーマに講演が催され、面接の種類や企業が求める人材、面接での自己PRのポイントなどをについて、学生の代表者2名による模擬面接を交えながら説明があり、午後からは実際に模擬面接を実施し、二人ひとりに効果的な面接についてアドバイスがありました。

2日目のグループディスカッションでは、学生が採用担当になった前提で、求める人材像を設定し、それに基づいて誰を採用するかについて活発な議論が交わされました。これにより学生は採用する側の視点を知り採用されるポイントを理解しました。

受講する前の学生は不安そうな表情でしたが、面接を2回3回と繰り返しおこなう他学生の面接を参考にしながら自分自身を表現するコツを掴むことができました。

アーランドサカモト(株)	元気寿司(株)	(株)田代	(株)ひらせいホームセンター
アーランドサービス(株)	興栄信用組合	中越運送(株)	フィールズ(株)
(株)アールインターナショナル	浩衛(株)	中越運送(株)	フジフューチャーズ(株)
(株)IHS	(株)コダマ	鶴木(株)	(株)船栄
アイビー企画グループ	コニカNC(株)	東光商事(株)	プリジスタインヤ新潟販売(株)
明石被服興業(株)	(株)サイクロンシステムズ	東芝情報システム(株)	(株)プレスメディア
昱(株)	サイバコム(株)	東テック(株)	(株)文教センター
味の素システムテクノ(株)	(株)佐久間組	(株)東横イン	防衛庁自衛隊
(株)飛鳥フーズ	(株)シアンズ	(株)トップカルチャー	ホーク電子(株)
(株)アテナ	CEC新潟情報サービス(株)	(有)トラスティック	(株)北越ケース
アビバグループ	(株)JTBTツアーズ	(株)ナカムラ	ホテルサンルート新潟
いからし小児科	(有)リクスエッジ・アドバンス	(株)名古屋三越	(株)ホンダ四輪販売新潟
板倉町役場	シテイフインシャル・ジャパン(株)	(株)新野・ベリタシステムエンジニアリング	本間東邦(株)
イワツキ(株)	(株)芝通	(株)新潟学習社	(株)マックス
(株)インフォメーション・デベロップメント	(株)ジャパンネット	新潟グランドホテル	(株)マルイ
(株)ウイング	白根市農業共同組合	新潟県警察	マルコ(株)
(株)ウオロク	(株)真電	新潟市役所	丸三証券(株)
越後さんとう農業共同組合	(株)スーパーツチダ	新潟証券(株)	丸新産業(株)
えちご上越農業協同組合	(株)すかいらく	(社)にいがた新生園	(株)三つ葉パーツ
越後中央農業協同組合	(株)スペースアルファシステム	新潟ゼロックス(株)	(株)源川医科機械
NECソフト(株)	スミツ長岡硝子(株)	新潟総合警備保障(株)	明和工業(株)
エヌエスアドバンテック(株)	(株)星光堂薬局	新潟トヨタ自動車(株)	(株)メガネトップ
NSGグループ	セコム上信越(株)	新潟トベコ(株)	山文大同青果(株)
(株)エフエスシー新潟	セントラル商事(株)	新潟日産自動車(株)	(株)湯沢グランドホテル
(株)エム・アイ・ディ・ジャパン	(株)総研システムズ	新潟リコー(株)	(株)ゆもとや
(株)エムテートリマツ	(株)ソネット	日本生命保険(相)	(株)吉野家ディーアンドシー
ELBEC教科図書センター(株)	ソフトウェア興業(株)	日本赤十字社	(株)ヨドバシカメラ
(株)達磨製作所	(株)第一印刷所	(株)ニューズライン	(株)ライズ
(株)雅義苑	第一企業(株)	(株)ハートフレンド	らう造景(株)
(株)カワチ薬品	ダイエー建設(株)	(株)ハモック	(株)リオンドールコーポレーション
関越ソフトウェア(株)	(株)高助	(株)原信	(株)和田商会
木村綿業(株)	(株)タカコシ	パワーズフジミ(株)	渡辺製作所(株)
(株)キュービット	(株)タキザワガレージ	(株)BPM	(株)渡森
(株)クリスタル	タクトシステムズ(株)	(株)東新潟自動車学校	
グローバリー(株)	(株)武富士	東日本旅客鉄道(株)	

湧 YUUGEN 源

編集後記に代えて

広報委員長 正田 達夫

第六期の卒業生おめでとうございました。ご父母のかたには、大切に育てたご子息が、4年間の学習を終え、社会へ飛び立つことになり、ほつとされていることと存じます。

大学を卒業することは勉学の終わりではなく、真の学びの始まりです。英語では、卒業式のことをコメンズメント(commencement)といいます。この言葉は「開始する事」「始める」と同じ言葉です。

日本の経済は、ますます厳しい状況が続いております。企業における処遇は年功序列制から能力給へ変わるでしょう。このような厳しい状況の中で、成長し、生き抜くには、常に初心を忘れず、学び続けねばならないでしょう。

どうかご父母のかたには、卒業生が仕事の忙しさに負けずに学ぶことを続けるように、励まして下さい。

本学の市街地キャンパスも六月には完成し、九月からは、本格的な稼働がはじまります。この市街地キャンパスを利用して生涯学習を続けられるように、お勧めします。

市街地キャンパスには、市民の皆様が利用できるIT関連の施設も開設される予定です。どうぞ、社会人になった卒業生もご父母のかたも、ご利用になって下さい。

※四ページに書きましたが、筆者は今年で定年になり退職いたします。この9年間で、大学は種々の面で発展し、さらに今年は市街地キャンパスが開設され、画期的な前進の年となります。

大学ならびに読者各位のさらなる発展を祈るものです。